

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號四第 卷三十五第

月十年六十和昭

## 論 叢

日本銀行を中核とする金融機關の組織體……………

經濟學博士 小島昌太郎

資本主義を越ゆるもの……………

經濟學博士 柴田敬

イギリス海運政策史上のアメリカ……………

經濟學士 佐波宣平

個人主義經濟倫理の批判……………

經濟學士 白杉庄一郎

ナチス經濟團體とカルテル……………

經濟學士 靜田均

## 研 究

石門心學に於ける經濟思想……………

經濟學士 竹中靖一

經濟社會の構造分析……………

經濟學士 北野熊喜男

## 說 苑

ロバートソンの價格水準理論の批判……………

經濟學士 青山秀夫

陳翰笙著「産業資本と支那農民」……………

經濟學士 鈴木總一郎

## 附 錄

彙 報

外國雜誌論題

陳翰笙著

「産業資本と支那農民」

鈴木総一郎

一 中國社會研究の主要課題

一般に中國社會の研究は、嘗ての社會類型の論争段階を越えて、具體的なる社會的諸關係の分析に移りつゝある。かゝる研究對象の進展と共に、社會類型の研究に端を發する「科學的研究方法」が一時の支那學者的記述方法に代つて支配的となりつゝあることは斷るまでもない。研究のこの段階に於て必要なることは、社會科學の單なる公式的な適用ではなくして、一定の研究對象が綜合的複合體としての中國社會の構成に於て如何なる地位を占め、如何なる機能を果すものであるかを、精密なる實證的研究の下に具體的に把握することにあると思はれる。普通に中國社會は半封建性・半植民地性に於て把へられてゐるが、それらの特性の具

體的な表現形式の實態に關する研究が行はれねばなら  
ない。一定外國資本の中國農村に與へたる諸影響の具  
體的な分析の如きは、この意味に於て正に研究を要請  
せられてゐる主要課題の一である。

さきに「廣東農村生産關係與生産力」なる名著を發表  
して、中國農業問題に關する權威的存在として普く認  
められるに至つた陳翰笙博士は、更に「Industrial Cap-  
ital and Chinese Peasants」なる書物を一昨年發表し注  
目せられてゐた。この新著が最近二氏により同時に邦  
譯せられ、ひろく日本の讀書界に見えることゝなつた。

原書は、筆者の知れる限りでは、中國に於けるアメ  
リカ葉煙草生産を包括的且つ實證的に研究せる唯一の  
モノグラフィである。而もこの書物は單なるモノグ  
ラフィたるに止まらず、葉煙草生産を中心として展  
開せる社會的諸關係の綜合的分析を完全になしとげて  
ゐる。従つてこの書の特質は、現在切實に研究を要求さ  
れてゐる重要な課題を課題としてゐるに止まらず、  
この課題のもつ意味を正確に展開し、その問題に即し

つゝ中國社會の根本的性格を解明してゐる點にある。

アメリカ種葉煙草生産は、外國資本と中國社會との  
交錯圈であり、その意味に於てこの問題の解明は、優  
れた社會科學の理論と共に、中國農村社會の實證的研  
究と、外國資本進出の歴史的調査とを併せ必要とする。  
正確な調査的手腕を謳はれる中國有數の經濟學者で  
あり、且つ外國學界との交渉深き、陳翰笙博士こそ  
は、恐らくこの問題研究の唯一最適の人であらうと思  
はれる。この人にしてこの書ありとの感が深い。而も  
原書は文章平明・論理整然としてゐる。譯本により今  
後我が國に於ても廣汎に讀まるべき此の書こそは、中  
國社會經濟研究に對して、恐らく非常に貴重な役割を  
果すことゝ思ふ。

本書について更に附言すべきは原著者自身の序文に  
ついて、ウィットフォーゲルの長文の序文が附せら  
れてゐることである。

## 二 ウィットフォーゲルの序文

- 1) Chen Han-Seng, Industrial Capital and Chinese Peasants, a Study of the Livelihood of Chinese Tobacco Cultivators, with an Introduction by Karl August Wittfogel. 1939.
- 2) 本稿では、陳翰笙著、水田博譯、産業資本と支那農民(東亞叢書)、を參照。

陳博士のこの書は、ウイットフォーゲルの序文にもある如く、「外國資本・中國政府筋及び事業家・農民といふ種々の經濟勢力の社會的諸關係、即ち葉煙草生産といふ一つの軸をめぐつて動き且つ動かされる一切のものを敘述してゐる。」加ふるに「その事實が正確であり、且つそれが明かにした各種の社會的勢力の相互作用の故に一層注目されるべきもの」である。

陳博士の研究を側面的に觀察して、ウイットフォーゲルは、機械生産の影響といふ觀點に立つて、中國に於ける特殊的性質を導き出し、それは、中國舊社會の性格と外部からの（帝國主義的）影響との二つに因由すると論じ、一方に中國舊社會の型に關する諸見解を列擧すると共に、「半植民地性」に論及してゐる。今、前者については別段の問題はないが、後者について、植民地と半植民地との相異を、印度のアッサム茶栽培地の事情を敘述し、これと中國の煙草生産地帯との對比の中に見出さんとしてゐるのは注目に値ひする。蓋し、中國社會を半封建性・半植民地性に於て把握せんとする

ことは既に常識的に一般化されてゐるが、而もその半植民地なる内容に關しては嚴密な規定が殆んど行はれてゐない状態にあるからである。全植民地と半植民地との基本的相違こそは、今後再び新たに檢討されねばならない問題である。アッサムの茶栽培地帯等と共に、中國の葉煙草生産地帯の實態調査はこの意味に於ても利用されることゝなるであらう。

ウイットフォーゲルは、更に右に續いて、新形式の植民地といふ新しき範疇を造り出し、伊太利・獨逸・日本の政策に論及してゐるが、これは、東亞叢書の譯者が適切に指摘してゐる如く、「これ以後は原著の内容たる煙草經濟とは直接何の關係もない。且つ、そこでは特定國に對して『言はざれば腹ふくる』底の感情的惡批判を以て臨んで居り、冷徹嚴密を要求せらるべき理論家の態度として『聊か公平を缺く點』もなくはないと思はれ<sup>1)</sup>譯出は差し控へられてゐる。原著では十一頁に涉る部分である<sup>2)</sup>。

### 三 全體の構造

1) 水田譯、8頁（ウイットフォーゲル序）。

2) Chen Han-Seng, *ibid.*, p. xiii—p. xxiii.

此の著の本論は、アメリカ種葉煙草の導入の歴史から始まる全九章より成り、これに卷末の附録と、三十八に及ぶ本文中の大小の統計表が附け加へられてゐる。

- 第一章 アメリカ種煙草の導入
- 第二章 煙草耕作の促進者——買辦と豪紳
- 第三章 煙草栽培の發展
- 第四章 葉煙草の收買網
- 第五章 支那紙巻煙草工業の運命
- 第六章 煙草農民と販賣問題
- 第七章 煙草農民の勞賃
- 第八章 利率
- 第九章 煙草地帯に於ける地代の昂騰

(1) 第一章・第三章・第五章に於て、紙巻煙草栽培の歴史が敘述され、外國産業資本によつて農村が強力的に商品生産に移行させられる過程が闡明され、民族煙草工業の没落が外國資本特に英米煙草會社の進出と對比して論じられてゐる。

(2) 第二章及び第四章は、前の第三章における外國資本の民族産業壓迫過程の分析と共に、半植民地における外國資本の活動形式を「冷靜」にして「淡々」たる筆

致の中に活寫してゐる。

(3) 最後に第六章以下の四章は、外國産業資本の煙草移植により、中國農民が如何なる影響をうけ、如何なる境遇に立たされてゐるかを、豊富なる統計を驅使して論究してゐる。

以上の如き構造をもつた本研究は、著者自身極めて正當なる問題提起をなしてゐる如く「民衆の生活の水準が一般に低いといふ既に衆知の事實を指摘することは、中國に關しては、最早さほど必要なことではなく、重要なことはむしろその方向を分析し確めること」にあり、この課題を決定するための一つの典型的事例として、適切にも、アメリカ種煙草生産地帯が研究對象として取り上げられたのである。而して、結論的に、「半植民地的・半封建的支那に於ける工業化及びその結果たる工業的作物の發達は、殆んど例外なく、一般の生活水準を、とりわけ中農と貧農のそれを低下せしめる傾向をもつ」ことを、全卷の緻密な分析・検討の上に、疑問の餘地を残さぬまでに明白に、論證してゐる

のである。

#### 四 外國資本と買辦

本書はその豊富なる内容により、極めて多数の貴重なる資料を提供し、今後利用される點は廣汎にわたるものと思はれるが、就中、筆者の興味を強く惹くものは、外國資本と買辦との關係についてである。

葉煙草の生産費が、山東にては、最低に見積るも、小麦の三倍・高粱の五倍・大豆の二十五倍に達することを示したる上、<sup>1)</sup>この生産費の高きことは、中國にては、商業資本及び高利貸資本の助力なしには、英米煙草の如き外國産業資本も大なる効果を擧げえないことを示すと述べてゐる。こゝで、買辦・商業資本の介入なしに外國資本が直接煙草農民と接觸しえない理由について説明されてゐないのは遺憾であるが、生産費高きことが、買辦若しくは商業<sup>2)</sup>高利貸資本の活動領域を、新たに提供し若しくは廣めることについては異論がない。これに關して、英米煙草の買辦の活躍事情が

明細に敘述せられ、買辦と豪紳、或はそれら豪紳の組合たる煙草農民組合及び煙草合作社等が一般民衆の協同組織機關ではなくして、地主・富豪の機關たる實情が明白に剔抉されてゐる。

買辦が中國社會の特有の産物であり、且つそれが外國資本の侵入に寄生して、中國社會に吸着・收取することについては既に疑ひなき處であるが、從來の銀行及び輸出人商社の買辦に關する報告の上に、今や、英米煙草の買辦に關する信憑すべき實例が提供されたことによつて、この方面の研究は更に一步を進めうることもなるであらう。

外國資本と買辦との關係につき、官僚との關係が、同じく豊かな筆致をもつて敘述されてゐる。李鴻章・張之洞等を初めとする「官僚買辦」なる特殊の性格を産み出したこの國に於ては、英米煙草の場合にも何等の例外はなく、本来、民族産業育成のために外國資本の侵入を喰ひ止むべき官僚自體が、民族産業を抑壓し、外國資本の發展に盡力せる實情がまさしくと書き出さ

1) 水田譯、22頁。  
2) 陳翰笙著、井出譯、南支那農業問題の研究、13頁。

れてゐる。

この買辦・官僚・豪紳の敘述は、その半面に於て、英米煙草の積極的進出の具體的様式そのもの、敘述であり、外國資本の中國社會進出の典型的な一事例として、貴重な文獻となるであらう。

## 五 高度商品化と農民

陳翰笙は序文に於て、農民を三種に分ち、中農とは普通の年に收支相償ふ農家、富農とは通常、生活費及び農場經營費として必要なる支出を支拂つた後、なほ年々餘剰收入ある農家、貧農とは普通の年に於てすら收支相償ひ得ぬ農家、と規定してゐる。<sup>1)</sup> かゝる規定の上に、煙草農民を常に三層に分ちて、それらの有機的聯關の上に分析を進行せしめてゐる點極めて特徴的である。

煙草農民の經濟生活については、第六章以下に詳述されて、殆んど餘韻を残さぬまでに活寫されてゐる。

特に「煙草農民と販賣問題」を取扱つてゐる第六章に於

ては、農民と外人煙草鑑定人及び買辦との收買廠における取引に於て、生産物の不當の格下げ、一部葉煙草の天引・買辦の手續料收取・貨幣計算上の欺瞞等が、武裝警官の威嚇の下に行はれてゐる事情の精密なる敘述に至つては、慘澹として殆んど眼を掩はしめるものがある。武裝警官は外國會社を監視するためではなく、實に農民が會社側の要求に違反せざるやうにと、外國獨占資本擁護のために派遣されるのである！

葉煙草の買上名目價格が逐年低落するのみでなく、實質價格即ち農民の實收價格は山東省の濰縣を例とすれば、一九一九年から一九三四年間に於て、名目價格の四五%乃至七一%たるに過ぎず、特に凶作の際の如きは農民の逆境に乗じて實質價格はその地方の名目價格の一二%にまで下落することすらあるといふ。

この名目價格と實質價格との間の莫大な鞘は、農民の犠牲に於て、結局、商業資本及び産業資本の兩者又はその手先をつとめる葉煙草收買人達によつて收得されたのである。

1) 水田譯、2頁。なほ 陳翰笙著、井出譯、南支那農業問題の研究、12頁參照。

かゝる牧買機構の下にある煙草農民の勞賃は、「正當賃銀」の約半分を普通とし、甚しき場合には、即ち一九三四年の鳳陽及び一九三三年の濰縣では正當賃銀の約二〇%、一九三四年の襄城に於ては九%、更にその前年一九三三年には何等の勞賃對價も拂はれず、絶對支出をさへ割込んだと算出されてゐる。

「農民が當然受くべき賃銀を受けえないといふこと、支那農業の普遍的現象である。實に、現在の支那における農業生産は勞賃の犠牲において維持せられてゐる」とはいふものゝ、農民の實收賃銀の割合に於ては、葉煙草は小麦・高粱に比して更に小である(二一四頁、第十七表)、その理由として、煙草生産地帯における利子率及び地代の昂騰が非煙草地帯よりも高率であり、なほ重要なものは、葉煙草の一般生産費が極めて高く、且つ賣却價格が一方的に切り下げられる點等が考察されてゐる。

従つて、「その比較的有利な地位にも拘らず、富農は外國金融資本及び産業資本一般の不斷の脅威のため、

要心深く且つ退嬰的な方法を取り、アメリカ種煙草の栽培に敢て深入りしようとするのである」<sup>3)</sup>比較的多くの土地を耕作しうる者が、實際にはこの特別なる商業的作物を餘り栽培せず、一方、煙草地帯の人口の大多數を構成してゐるのに、農耕地の總面積の二七%足らずしか所有してゐない貧農たちが、却つてその財政的能力を遙かに越えて、煙草を栽培しなくてはならぬ事實<sup>4)</sup>こそ「中國の著しき特異性」であるといふ。併し實質收入率悪しく、金錢的支出をさへ時に蔽ひえない葉煙草生産が、如何にして貧農・中農により行はれ、更にその繼續を可能ならしめられてゐるか？

## 六 殘された解答

この問題に對して、陳翰笙博士は次の如く一應答へてゐる。「過剩勞働を就業せしめる機會は殆んどなく、貧農の場合にはそれが特にひどいから、アメリカ種煙草の栽培はその唯一の抜け道と考へられるやうになつた。つまり、農民達は何かしてゐる方が何もしないよ

1) 真。頁。115  
2) 水田譯、頁。139  
3) 水田譯、頁。140



りはまじだと信するやうになつたのである。(believe that doing something is better than doing nothing) 彼らは「煙草栽培勞働が現金でも物品でも充分償はれないことは勿論、その一部すらあぶないことをよく知つてはゐるが、自分達が食ふに足る収入だけでも得たいといふたいとそれだけで煙草を植ゑるのである。」<sup>1)</sup>

だが、單に収入をうるためならば、富農すら手控える煙草栽培を何故選ぶのであらうか？

穀物栽培ならば、原始的な農具で、天然肥料の外、多くの經費を費さずして可能であるのに、農民が煙草栽培を選ぶときには、肥料として豆粕と胡麻油とを、又葉煙草乾燥用として石炭をも購入せねばならず、現金支出は多額に上る。このために、高利貸より資金を借入れ、法外な地代を支拂はねばならぬ。而も他の作物より實質賃銀割合の決して良からざる煙草栽培が如何にして行はれうるか、その理由を充分に解明してゐるとは考へられない。

これについて、徐永綏の如きは、「農民が煙草耕種

を始めたのは、もと／＼利益を期待したためでなく、むしろかれらの貧困の眞只中で種子と借金を入手しうる唯一の方途は煙草栽培であつたからである。」と説明してゐるが、これ亦根本的解答を與へるものとは思はれない。

本來、この問題に満足なる説明が與へられなければ、外國煙草資本の進出の理論的根據は説明出来ない筈であり、従つて、煙草栽培が放棄されて、舊状態に復歸することにより、農家への影響は自ら異なるやもはかられず、それ故に半植民地性の農村への影響もその限り否定せられることもありうる筈である。

私見によれば、土地に比して勞働人口が過剰であり、普通作物に於ては、かゝる零細農耕の下では、饑餓線以下のものが生ずべき中國農村社會の過剩人口に、問題の起因は存する。即ち、ここでは、勞働力は一應無償的に考へられ、一定小面積に集約的に勞働を加へることによつて、始めて農村人口の單純再生産が可能となる。然るに、陳博士が第七章に於て勞賃の問題を論

1) 水田譯、142頁。(但し英文は筆者挿入)  
2) 徐永綏、山東東部の葉煙草取引、(杉本譯、中國農村問題、218頁)。

するに當つては常に勞賃不拂部分が考察の中心とされてゐる。これによつては、アメリカ種煙草生産に於ける利益が、農民以外の部分に剝奪されることは説明されても、葉煙草耕作の根據は説明されぬこと當然である。こゝに農民の實際收入の絶對量を考察しなければならぬ證據がある。

一言にして云へば、煙草栽培は中國社會の土地に對する過剩人口が根本的原因である。官僚・地主・豪紳の三位一體的收取を基礎とする農村構成を變革せざる限り、高利貸資本による農産物の剝奪部分を減ずることとは出来ない。その限り、農民が生存を續けるためには、自己の利用しうる一土地單位に、無償的に集約勞働を施し、土地一單位當り生産物の農民保留部分の絶對量を少しでも擴大せしめることが不可避的に必要とされる。この場合勞賃部分として回收される率が、絶對量の増大に従つて、小とならうとも問題でない。こゝに幾多不利なる條件につまれば、なほ貧農・中農が葉煙草生産に赴く必然性がある。かく考へる時、

陳翰笙著「産業資本と支那農民」

初めて富農が葉煙草生産を避ける理由も判然とする。蓋し、富農は勞働單位當りの報酬が小なる生産を行ふ必要なく、且つ雇傭勞働を以てこれを行へば、勞働對價を他の作物並に拂ふ限り不利であるからである。

中國農村が商品生産に向つたのが、その社會の半植民地性のもつ必然であると同じく、中國農村が外國資本に緊縛されそこから脱しえないのも、この社會の特質のもつ必然的結果である。

× × ×

殘された問題は一二あらうとも、この著書は、幾多の適切なる示唆を含んで居り、その多方面にもつ合著は充分に咀嚼さるべきものである。恐らく、具體的な問題を把へて、中國社會の半封建的・半植民地的特質を、これほどまでに「生き生きと」描寫しえたものは他に求められえないであらう。正しき方法論の上に、具體的な資料を驅使して展開せるこの書は、最近刊行せられてゐる中國經濟に關する群書中一頭地を抜き、永くその學問的價値を保ちつゞけることと思はれる。

第五十三卷 四七九 第四號 一・一七